

今月 2 月 23 日(土)はロータリー創立記念日です。今日は「ロータリー誕生」の話。2 回目として「ポール・ハリス」青年期の話をしします。

ポールの学生生活は、お世辞にも平坦な路を歩んだとは言えません。ポールの聡明な頭脳に、祖父ハワードの教育に対する熱意が加わって、成績は極めて優秀であったにもかかわらず、向こう見ずで喧嘩早く、さらに学校嫌いという重大な欠陥があり、これが突飛な行動となって現れて、彼の人生を幾度か狂わせることとなります。

ウォーリングフォード中学、ラトランド高校を経て、ラッドロウにあるブラックリバー・アカデミーに入学しますが、悪ふざけが高じて一年で退学処分を受ける一方で、次に入った陸軍士官学校バーモント・アカデミーでは抜群の成績を修めて、無事卒業するという両極端の道を歩みます。

1885 年バーモント大学に入学しますが、無実であったにもかかわらず、持ち前の正義感から、新入生に対する暴力事件の責任をとった形で、再び退学処分を受けることになります。もともと、1933 年に大学側は、その処分に誤りがあったことを認めて、改めて学位を授与するという措置を講じたので、この件に関するポールの名誉を回復されたとは言えるものの、その後の彼の人生に大きな影響を与えたことは、まぎれもない事実です。

この退学処分はポールの人生観に大きな変化を与えるきっかけになりました。自分の自由奔放な性格が、祖父母に大きな悲しみを与え、世間の人に顔向けできない結果を招いたことを初めて悟ったポールは、『人の信頼に応えることの重要さを深く悟り、万金を積んでも返すことのできない人生の債務を弁護士という職業を通じて返すことを決意します』この事件を契機に、利発でわんぱくな少年は理性と責任感のある青年に変身していったのです。

祖父ハワードはポールの為に家庭教師をつけて勉学を続けさせ、1887 年 19 歳で晴れて名門プリンストン大学に入学しましたが、翌年 3 月、祖父ハワードの死という不幸な事態が起きました。ハワードは大規模な農園経営者として十分な資産を持っていましたが、最愛の孫であったはずのポールだけを、遺産相続人から除外する遺言を残していました。

その理由については、ハワードがなまじ資金を息子ジョージに与え過ぎたために、一家が不幸な生活を送った過ちを繰り返すまいと考えたという説もありますが、当のジョージやフォックスの娘(姪)にまでも遺産を与えていることから考えて、ポールが少年時代犯した数々の不始末を罰する意味で、あえてポールを遺産相続人から外したとする見方もありますが、いずれが正しいのが知るすべはありません。

学資が途絶えたことでプリンストン大学を退学せざるを得なくなったポールは、次の進路を考える調整期間として、ウェスト・ラトランドのシェルドン大理石会社にボーイとして就職します。同じ時期に兄のセシルがこの会社のセールスマンをしていたという記録がありますから、きっと兄を頼って就職したものと思われます。しかし自分の将来の進路を弁護士に定めたポールは、一年間、アイオワ州デモイン市のセント・ジョン・スチブソン・ワイズナンド法律事務所での義務的研修についてした後、1889 年にアイオワ州立大学法学部に入学し、卒業と同時に弁護士試験にも合格します。1891 年 6 月、23 歳のことでした。



3 歳のポール



6 歳のポール

2018年度 THE世界大学ランキング TOP 20

1	オックスフォード大学	UK	1→
2	ケンブリッジ大学	UK	4↑
3	カリフォルニア工科大学	USA	2↓
3	スタンフォード大学	USA	3→
5	マサチューセッツ工科大学	USA	5→
6	ハーバード大学	USA	6→
7	プリンストン大学	USA	7→
8	インペリアル・カレッジ・ロンドン	UK	8→
9	シカゴ大学	USA	10↑
10	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	スイス	9↓
10	ペンシルベニア大学	USA	13↑
12	イェール大学	USA	12→
13	ジョンズ・ホプキンス大学	USA	17↑
14	コロンビア大学	USA	16↑
15	UCLA	USA	14↑
16	ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン	UK	15↓
17	デューク大学	USA	18↑
18	カリフォルニア大学バークレー校	USA	10↓
19	コーネル大学	USA	15↓
20	ノースウェスタン大学	USA	20→



アイオワ大学卒業時(23 歳)